

今年もやります

# 豊岡のホタル調査



ホタルの優しく淡い光が、私たちの心を和ませてくれる季節がやってきました。豊岡には一体どれくらいホタルがいるのでしょうか？

市では、昨年に引き続き、市内全域でのホタル調査を行います。身近な人たちや友達と楽しみながら、家の周りを歩き、心地良い夜を過ごしませんか？



調査期間 6月5日(金)～7月12日(日)

※この期間内、可能な日に調査を行ってまいります。期間中は、何日でも調査できます。

調査方法 午後8時から9時ごろまで、自宅周辺でホタルを探し、調査票に記入してください。

※夜間の調査なので、子どもだけでは行わないでください。また、事故などに十分

に注意してください。

調査票 調査票は、小学校区ごとに分かれています。希望の校区の調査票をお渡しします。

調査票は、小学校3・4年生の児童には、学校を通じて配布します。

《問合せ》コウノトリ共生課 21-9017

## コウノトリ文化館市民講座「ホタル観察会」を開催

調査の前に、ホタルを知る絶好の機会です。

日時 6月18日(木)午後8時～9時

場所 コウノトリ文化館

内容 ①ホタルのお話(文化館多目的ホール)②ホタル観察(コウノトリの郷公園)

その他 参加費・申込み不要

《問合せ》コウノトリ文化館 23-7750



## 小さな自然再生活動支援助成事業を募集

自然や生きもののための「小さな自然再生」に取り組む市民の活動を、次のとおり支援します。

▼対象活動 4月1日(水)から平成28年3月31日(木)までに実施する、次のいずれかの活動

- 地域の生物多様性を保全するための“小さな自然再生作業”(例：ビオトープづくり、繁茂する外来雑草等の除去など)
- 地域の生物多様性を知るための観察会や生きもの調査
- コウノトリ野生復帰や生物多様性をテーマとした自然環境体験学習活動

▼対象者 次の要件を全て満たす市民団体・グループなど

- 市内に活動拠点を有し、主に市内で活動
- 宗教的、政治的な活動や選挙運動、営利を目的としない、公共の福祉を目的とした自主的な活動
- 構成員が3人以上

▼助成金額 予算の範囲内で、1件当たり10万円以内(謝金、役務費、消耗品費などに使えます。)[先着順]

※助成額は1万円を単位とし、1万円未満の端数は切り捨て

▼応募方法 平成28年3月4日(金)までに、市ホームページやコウノトリ共生課にある応募申請書および団体調書を提出

《申込み・問合せ》コウノトリ共生課 21-9017



▲繁茂する外来雑草の除去



▲生きものの生息場所の清掃

## 「出張！田んぼの学校」を募集

“生きものの先生”が皆さんの地域に

「田んぼの学校」とは、皆さんの身近な水田や水路、ため池、里山などを、生きものとのふれあいを通じながら遊びや学びの場とする楽しい活動です。

「自然を相手にいろいろやってみたいけど、どうしたらいいんだろう？」

そんなとき、NPO法人コウノトリ市民研究所のメンバーが「生きものの先生」として皆さんの地域に出張し、生きもの調査や観察会などの活動をサポートします。



生きもの調査

地区行事やPTA活動などに取り入れて、皆さんの地域の自然を再発見してみませんか？休日・夏休みも大歓迎です！

▼費用 原則無料(コウノトリ基金を活用)

《申込み・問合せ》コウノトリ共生課 21-9017

# 新 生きものイキイキ観察記①

水田生態系を支えるカエルたち

このシリーズは、豊岡市生物多様性地域戦略の「身近な生きものを『まずは知る』作戦」として紹介します。

《問合せ》コウノトリ共生課  
☎21-9017

5月に入ると、シュレーゲルアオガエルの軽やかな鳴き声次第に小さくなり、平野部の水田では、アマガエルやトノサマガエルの鳴き声が響くようになります。

2月から3月ごろに生まれたアカガエルのオタマジヤクシは、5月の下旬になると一足先に子ガエルとなって陸に上がり、やがてモリアオガエルの産卵が始まります。



シュレーゲルアオガエル

アマガエルやトノサマガエルのオタマジヤクシは、暖かい田んぼの水中でどんどん成長し、6月下旬には上陸を始めます。夏になっても田んぼに残っているオタマジヤクシはヌマガエル。暑さに強いカエルです。

山の近くの水田や池で秋になっても見られるオタマジヤクシはツチガエル。こちらはオタマジヤクシのままで寒い冬を越すこともできます。

少し深い溝や池があるところでは、ウシガエルの鳴き声が響いてきます。ウシガエルのオタマジヤクシは大きく、ツチガエル同様に冬を越します。

たくさんの卵を産むカエルたちは、オタマジヤクシのときも、カエルになってからも他の生きもののエサになります。ゲンゴロウの仲間やタガメの仲間などの昆虫もオタマジヤクシを食べますし、もちろんコウノトリもカエルが大好きです。

(写真・文 NPO法人コウノトリ市民研究所 上田尚志)

玄武岩の玄さんが堅いテーマも柔らかく解説

## 豊岡のここに住むじや！②

ミラノ国際博覧会でコウノトリ？



玄さん、今イタリアでミラノ国際博覧会が開催されているけど、どんな博覧会か知ってる？

知つとるで。国際博覧会は、おおよそ5年に一度、世界のいろんな国で開催されとるんじやが、今回のミラノ国際博覧会は「地球に食料を、生命にエネルギーを」がテーマじゃ。初めて「食」をテーマにした国際博覧会じゃよ。

今年の10月末まで開催される世界約150の国や団体が出席し、約2千万人が会場に訪れるといわれている。

へえ。世界のおいしいものが集まって来るって

ことかな？

そうじゃ。おいしいものもいっぱいじゃが、「食」を通じて、それぞれの国の文化を知ることができるとるんじやよ。日本館の中のフードコートでは、コウノトリ育むお米を食べることができるとるぞ！

すごい！私たちが給食で食べている「コウノトリ育むお米」が世界中の人に食べられてもらえるんだね！コウノトリは紹介されるの？

もちろんじゃ。ミラノ国際博覧会会場にある日本館では「コウノトリが舞い降りる美しい日本の農村風景」として、コウノトリが日本の



▲豊岡市・JAたじま出展PRで使用するコウノトリ育むお米(無農薬)



▲コウノトリと水田

じゃ、コウノトリと一緒に住む環境づくりやコウノトリ育むお米が、世界中の人に知ってもらえるってことだよ！私も誰かに自慢しちゃおう！

産地を巡る旅を演出しているのじゃ。日本館を訪れた人に、コウノトリが田んぼにいる風景を見てもらえるんじや。7月16日には、豊岡市長もミラノ国際博覧会に行つて、コウノトリ育むお米を紹介するんじやよ。日本館を訪れる多くの人に、コウノトリ育むお米を知ってもらつて、食べてもらつて、豊岡の良さを感じてもらえたらうれしいのう。